

## 脱皮する石狩湾新港

新港は「大きな釣り堀」「荷崩れを起す港口」プロジェクト初期の酷評を経て、今日、石狩市の発展にとって大きな存在となつていくことは事実である。新年度港湾整備の予算要求額は例年を超える約28億円、今後数年かけて港湾の衣替えを始めるその初年度にあたる。国際コンテナの拡大により、港湾荷役の主役となつた※ガントリークレーンを増強し、ヤードをバラ荷時代から今日の需要に即応したものと改良するもので、近代物流港湾への転身を図ろうとしている。これにより、混雑とリスクを伴う荷役統制の大幅な改善が期待され、さらに東アジア・東南アジア圏のみならず、北米・欧州・北極廻りの海運も戦略的に展開できる。

▼今、岸壁に立つと、かつて途方もなく大きく、広く感じた港湾施設・水域は狭く、施設も戦略性を欠いたものであったと認識せざるを得ない。その理由の一つに港湾管理体制があると思うが、評価は歴史に譲るとしても劣化した商品をセールスするほど辛いものはない。今こそこれまでの価値観や行政の意識を越えた石狩湾新港の戦略性を持つべきで、明確な方向性を示すことにより初めて利用者の信頼を得ることができると考える。現在の表顔おもてづらに対してあまりにも遅れた物流機能の整備は魚眉しほまゆの急で、国際港湾への途を閉ざしかねない。(市長)

※門型の大型クレーン

# 広告